

1. 研究例会

第 53 回 「街の青少年たちへの代案を夢見る《韓国の代表的な危機青少年保護、教育機関の『野の花青少年センター』を中心として》」

金 美愛氏

2007 年 2 月

第 54 回 「ろう者に対する日本語教育『ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業』における日本語教育について」

佐藤 啓子氏

2007 年 3 月

2. 教員研究活動報告(2006 年 4 月～2007 年 3 月)

半田 淳子

論文 (追加) :

“Housewife, New Family and the Home in Japanese Modern Society,” *Transcultural Studies: A Series in Interdisciplinary Research*, Vol. 1, 2005, pp. 129-136.

報告 :

「2006 年度 I C U 夏期日本語教育教務報告」『I C U 日本語教育研究』 3 号、2007 年 3 月

学会発表 :

“Bridging Language Education and Literature Education,” 2006 International Conference on Japanese Language Education, Columbia University, New York, August 6, 2006.

日比谷 潤子

講演

1. “Migration, Language and Gender”, Gender: Sociolinguistic Approaches, Symposium at Tokyo Woman’s Christian University, November 2006.
2. 「言語変容とアイデンティティ」慶應義塾大学言語文化研究所公開講座「日系人の生活とアイデンティティ」、2006年11月.
3. “The velar nasal in Tokyo Japanese: a change nearing completion”, Queen Mary, University of London and University of Essex, November 2006.

研究助成金

1. 平成16-18年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)「移民コミュニティの言語の社会言語学的研究」研究代表者
2. 平成16-18年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)「話し言葉コーパスに基づく言語変異現象の定量的分析」研究分担者

廣瀬 正宜

出版物

日本語教育学会（水谷修他）編『新版日本語教育事典』語彙の部の「語彙」と「日本語の語彙の特色」（大修館書店）2005

中村 一郎

なし

根津 真知子

その他：

1. 第 29 回大学日本語教員養成課程研究協議会大会 シンポジウム「学部日本語教員養成課程修了生の新たな方向性」、企画及び司会、2006 年 5 月 19 日

佐藤 豊

論文

The acquisition of verbal nouns. In M. Nakayama, R. Mazuka, & Y. Shirai, eds., *The Handbook of East Asian Psycholinguistics* (pp. 62-68). Cambridge University Press. 2006
(Co-authored with Yoshie Yamashita)

書評

「白畑知彦著『第二言語習得における束縛原理－その利用可能性－』『第二言語としての日本語習得研究』 pp. 91-103. 第二言語習得会 2006

平田 泉

なし

尾崎（渡辺）久美子

研究発表

「『日本の聖書』から『聖書の日本語』へ」日本プロテスタント史研究会第 588 回例会、日本キリスト教団富士見町教会、2006 年 12 月 2 日

その他の出版物（新刊紹介）

「鈴木範久著『聖書の日本語』『キリスト教史学第 60 集』 pp.204-205、キリスト教史学会、2006 年 7 月

小川 貴士

論文

1. 「内包された読者と伸展するテキストー読みのテキストを学習者が創る活動についての試論ー」『リテラシーズ』2号, 2006年7月20日, くろしお出版

口頭発表

1. 「実践を見る視座ーコミュニケーション理論とテキスト理論からー」早稲田大学言語文化教育研究会第5回(早稲田大学, 2007年2月16日)

鈴木 庸子

報告

1. 「会話授業は海を渡ってーICU 中国語・北京大学日本語 ビデオ会議のインパクトー」(漆紅と協同執筆)『FD Newsletter』Vol.11, No2, International Christian University, March 2007

研究発表

1. 水田澄子・梅田康子・鈴木庸子「IS 連想法による韓国人日本語学習者のひらがな学習の効果」(水田澄子・梅田康子との協同研究、水田が発表)、韓国日本学会、平成19年2月10日、於建国大校 韓国ソウル市、予稿集 209-213 頁.

研究助成金

1. 2006 年度 ICU 研究助成基金補助金 “Development and Evaluation of Japanese E-Learning Programs for Academic Professionals : Adopting a Constructivistic Approach” (研究代表者 鄭仁星)

小澤 伊久美

研究論文

1. 「日英対照に見られる日本語話者の時間意識」『日本学研究』16号、北京日本学研究中心、2006年12月、80-90頁.

その他の出版物

1. 「時間認識は言葉にどう表れるか」(潘鈞との共同執筆)『月刊 言語』2006年5月号(Vol.35, No.5), 大修館書店, 44-51頁.

金山 泰子

研究論文

1. 金山泰子・二宮理佳「『はい』『ええ』の使い分けに関する意識調査」『ICU日本語教育研

究』3、ICU日本語教育研究センター、2007年3月

黒川 美紀子

研究論文

1. 「「とき」の指導法再考」『日本語論叢 特別号 岩淵匡先生退職記念』、日本語論叢の会、2007年3月

その他の出版物

1. 金子史朗・黒川美紀子・深田みのり・宮下智子『マンガで学ぶ日本語会話術』アルク、2006年

佐藤 由紀子

なし

3. 教職員一覧

センター教員（教養学部と兼任）

小川 貴士 2007年度夏期日本語教育教務主任

尾崎久美子

小澤伊久美 2006年度夏期日本語教育教務主任（2006.2月まで）

金山 泰子

黒川美紀子

佐藤有紀子

佐藤 豊 センター長及び2006年度夏期日本語教育ディレクター・文化プログラム主任・
『ICU日本語教育研究』編集委員長

鈴木 庸子

中村 一郎

根津真知子

半田 淳子 2006年度夏期日本語教育教務主任（2006.3月より）・『ICU日本語教育研究』
編集委員

日比谷潤子

平田 泉

広瀬 正宜

センター嘱託

小松 佳子 センター事務